

【論文提出者】 社会文化科学教育部 教授システム学専攻

氏名 増山 純二

【論文題目】 救急初療の看護過程学習の足場かけのデザインに関する研究

【授与する学位の種類】 博士（学術）

【論文審査の結果の要旨】

増山純二氏が提出した論文「救急初療の看護過程学習の足場かけのデザインに関する研究」は、独創性・有用性ともにすぐれた研究業績であり、以下の経緯で審査委員会は本教育部に提出する学位論文として、博士号にふさわしいとの判断に至ったことをここに報告します。

(1) 本論文の位置づけおよび審査経緯

本論文は、看護師の救急初療におけるクリティカルシンキング（批判的思考）能力を高める研修、とくに支援方法（足場かけ）の開発に関するデザイン原則をまとめたもので、独創的な研究である。増山氏が提出した博士論文に対して、令和5年6月22日13:00より、審査委員全員出席のもと審査委員会を開催し、口頭発表および試問をおこなった。

(2) 本論文の示す新知見、独創性

第1章では本研究の背景、および目的として「救急初療の看護過程学習における、シミュレーション教育（SBL）と症例を用いた教育（CBL）の足場かけの有効性について認知的負荷理論を用いて検証し、その結果を踏まえ、足場かけのデザインを開発すること」を述べた。第2章で救急看護実践について説明した上で、現状の課題から、救急初療における身体的側面の看護過程を基本とした看護実践の重要性、第3章でA大学の救急看護認定看護師教育課程の学内演習で実施される「救急初療の看護過程学習」の足場かけの設計について検証した。第4章では第3章のCBLの方法を再考したうえで、第5章でSBL、CBLの看護過程学習の指導計画から看護過程学習は課題中心型アプローチとして設計する重要性を確認した。第6章では総括として本研究の成果と今後の課題を述べた。

(3) 本論文の評価

本論文の成果は、これまでに多くの学会で発表しており、高い関心を得てきた。また研究成果については、以下の査読付学会誌に採録されており、独創性が認められている。

・増山純二，都竹茂樹，戸田真志，平岡齊士，鈴木克明（2020）救急初療看護における看護過程学習の足場かけの設計. 教育システム情報学会誌, 37(1): 32-43

・増山純二，都竹茂樹，戸田真志，平岡齊士，鈴木克明（2023）救急初療の看護過程の症例基盤型学習における足場かけの設計. 日本医療教授システム学会誌・医療職の能力開発（in press）

【最終試験の結果の要旨】

増山純二氏が提出した論文「救急初療の看護過程学習の足場かけのデザインに関する研究」をもとに、令和5年6月22日13:00より、審査委員全員出席のもと審査委員会を開催し、提出論文に基づく最終試験を行った。

口頭発表後、質疑応答を行った結果、学位論文の記述内容に関する質疑に的確に答えており、当該論文の先行研究や理論についての背景的な知識も豊富で、論考の過程も明確に整理されていることが分かった。また、今後ますます増えてくる認定看護師の看護スキル向上を目的とした学習の効果・効率を高めるための支援方法について、教育工学的な視点から的確に回答した。くわえて当該研究の限界に関する質問についても、研究の成果および本人のこれまでの学術活動によって得た知見に基づい

た学識が披露された。

令和5年6月23日13:00より行われた公聴会においても、自身の研究成果・意義を医療・看護分野外の聴講者にも分かりやすく提示し、質問に対しても的確に回答した。特に今回開発した看護職の学びの支援策が、救急初療の分野にとどまらず、ひいては我が国の医療・看護の質の向上に寄与することを聴講者に伝えていた。また、研究成果を複数の査読付き学術論文として公表していることも高く評価され、今後の研究発展も期待される。

よって、増山純二氏は、博士の学位を授与されるにふさわしい学識と研究遂行能力を有するので、最終試験を合格と判定した。

【審査委員会】

| | | |
|----|----|----|
| 主査 | 戸田 | 真志 |
| 委員 | 喜多 | 敏博 |
| 委員 | 中野 | 裕司 |
| 委員 | 合田 | 美子 |
| 委員 | 都竹 | 茂樹 |